

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 6月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800083
法人名	株式会社みさき
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	鹿児島県出水市荘973-1 (電話) 0996-82-5511
自己評価作成日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慣れ親しんだ地域の中で地域の方・入所者の方・スタッフが共に歩んで行きたいという願いを込め、ホーム名を「あゆみ」としています。家庭的な環境の中で、お一人おひとりが思いのまま、心穏やかに過ごして頂けるように日々努めています。体操、レクリエーション、散歩、家事的なお手伝いを日課に取り入れ、出来るだけ屋外で過ごす機会を作るように心がけています。広い敷地内にある畑や花壇は日光浴をしながら眺めたり、季節の野菜が育っていく様子を楽しみに、また、収穫の喜びを味わいながら食への意欲も高めています。今後もご家族や周りの方とのつながりを大切に、共に支え合っていく姿勢を大切にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、市中心地から少し離れた住宅で、周囲の田園はツルが飛来する、のどかで閑静な環境に設置されている。開設以来、自治会に加入して積極的にホーム周辺を清掃したり絵画展の見学や花見に行くと共に、施設の行事には地域の人々に参加して頂き、日常的に高齢者福祉に関する相談を受けるなど、積極的に地域との交流を図っている。自動通報装置の連絡先に自治会長を組み入れて火災訓練にも参加して頂くことで、災害時の地域住民との協力体制も構築されている。

○ホームの敷地は広く日当たりも良く、散歩や日光浴、菜園の手入れ等が安全に楽しめる環境となっている。またホームは鉄筋コンクリート造りの平屋で落ち着いた雰囲気である。天窗と広い窓が設置されて明るく清潔感に溢れており、広いリビングにはウッドデッキも設置され、中央部のキッチンからは、調理しながら利用者との対話や見守りが出来る構造になっている。共有部分及び居室共に余裕あるスペースで整頓されており、空調、採光、防臭等にも十分な配慮がなされ、利用者が平穏で気持ち良く過ごせる環境となっている。

○管理者は、職員のスキルアップに熱心に取り組んでおり、ホーム内の研修を計画的に実施すると共に、外部研修にも全職員が意欲的に参加している。また、職員の資格取得や技術修得も積極的にバックアップしており、信頼と協力体制を構築した働きやすい職場環境づくりに努めると共に、職員と連携して利用者個々の状況に細かに配慮した、より良いケアの実施に日々取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	慣れ親しんだ地域の中で、利用者の尊厳と暮らしを第一に考えた理念は、フタッフ全員が共有し、日々のケアに活かされるよう取り組んでいる。	利用者が住み慣れた地域で家族や友人と関わりながら安定した生活ができるように、利用者の思いを尊重した支援の実施を目標に、同系列のグループホームと同じ理念を掲げている。理念は目につきやすい玄関に掲示し、基本方針とともに申し送りやスタッフ会議の機会に研修や意義の振り返りを行い、認識を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が作った季節の野菜を下さったり、散歩や日光浴の際には話しかけて下さったりしている。自治会にも加入し、地域の情報も得られるようにしている。	自治会に加入し、ホーム周辺の清掃や近所のギャラリーの絵画展の見学、小学生やソロプチミスト等の訪問による交流を積極的に行っている。また散歩や買い物、外気浴時に地域の人と挨拶を交わしたり、友人知人の来訪、地域の人が農産物を届けてくださる関係が築かれており、ボランティアや施設見学も積極的に受け入れて、利用者はこれらの人々との交流を楽しんでいる。日頃から地域の人からの高齢者福祉に関する悩みや相談にも適切に対応しており、希望によっては短時間入所の体験も実施する等、地域に密着した交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ボランティアで踊りを披露して下さる際には近所の方もお誘いし、一緒に楽しんで頂いたり、施設見学や相談等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行い、施設の状況や活動について報告し、意見や助言等頂き、サービスの向上に活かしている。	会議は家族、地域住民、民生委員、行政等関係者の参加を得て定期的開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果、ヒヤリハットの事例の報告がなされると共に、委員からはケアに関する質問や意見及び地域の情報等が活発に出されている。薬品管理について委員から出された意見を参考にして、マニュアルの整備を取りかかるなど、具体的に家族や地域との交流や日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者や業務に関する相談等を行ったり、情報を頂いたりし、サービスの向上に努めている。又、運営推進委員会には毎回出席して頂き、意見や助言を頂いている。	市担当者には運営推進会議に出席して頂くとともに、市担当窓口や包括支援センターとの諸手続き等の際に、訪問や電話で運営や利用者のケアについて相談や協議を行い、情報や助言を頂くなどの連携を図ってサービス向上に取り組んでいる。また、市が主催する連絡協議会や研修等にも積極的に参加して情報や意見の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の行動を妨げることがないよう努め、屋外には職員が見守る中、日光浴や散歩など行えるようにしている。又、言葉でも拘束することがないように声かけにも注意し、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束の排除については、マニュアルを整備し、虐待防止や権利擁護等に関する研修を市担当者を講師に計画的に実施して理解を深めている。また、言葉による拘束も含めて日常的にケアの振り返りや話し合いを行い、安全を確保しながら自由な暮らしの支援を工夫している。居室や玄関の施錠は行わず職員は常に利用者の行動や思いの把握に努め、寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けている。利用者とのコミュニケーションを常に取り虐待が起こる事がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設にて、権利擁護や成年後見人制度について研修している。必要性が持たれた場合に活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所される際には契約書や重要事項で説明行った上で、不安や疑問点等ないか尋ねるようにしている。特に重度化や入院、退所に関して十分に説明を行い、同意を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催したり、運営推進会議にも参加して頂き、意見・要望伺う機会を設けている。意見箱も設置しているが、使われる事がなく、面会の際に個々に尋ね希望に添えるよう努めている。利用者には日々の関わりの中でその都度対応、検討行うよう努めている。	利用者の思いや意見は、日常生活の中での対話や表情、所作の見守りで把握に努め、また家族からは、来訪時の対話や家族会、電話等で、話しやすい雰囲気作りに配慮して気軽に意見や要望を頂くようにしている。それらは申し送りノートや日誌、ケース記録等で共有し、申し送りやスタッフ会議で話し合っケアの改善に取り組んでいる。結果は本人や家族にも随時報告している。苦情相談窓口の周知に努め意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案等は常に聞くように努め、スタッフ会議で全員が納得得られるようにしている。必要に応じ個人面談を行い意見等聞いている。	職員の意見や要望等は、申し送りや毎月の「スタッフ会議」、日常のケアの中で、また内容によっては職員各人に声かけや個人面談を行う等して聞き取っている。意見・提案はスタッフ会議等で協議して業務改善や利用者へのサービス向上に反映させている。資格取得や研修参加の希望者には、勤務時間を調整する等、積極的にバックアップして職員のスキルアップにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が向上心を持ち、働きやすい環境であるよう日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員が向上していけるよう法人外研修に参加し、学ぶ機会を持てるようにしている。又、学んだ事は、スタッフ会議で発表する場を設け、共有できるようにしている。講師を招いて内部研修にも取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、研修会にも参加できるようにしている。地域内のグループホームとは情報交換等行い、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の面談で心身の状態や本人の思いの把握に努め、一人ひとりについての日常生活における目標に沿って事前情報の用紙に記入し、全職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の面談でご家族の求めている事、不安に思われている事等を伺い、事業所としてどのような支援が必要なのか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、悩みなど聴きながら、支援すべき内容を明確にし、対応出来るよう努めている。入所に対して不安が強い場合には他のサービス利用も含め一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護するのではなく出来る事はしてもらい、出来ないところをさり気なくサポートするよう努めている。手伝って頂いた時にはきちんとお礼の意を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけが介護するのではなく、家族に出来る事は依頼し行ってもらっている。家族と話し合い、互いに協力し合いながら支援出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方々の訪問あり、居室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。又、馴染みの美容室に通われたり、付き合いのあった人や場所等、家族の協力を得て、関係が途切れないよう支援している。	利用開始時に本人や家族、関係機関から、生活歴や病歴、家庭環境、地域の人との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行い、フェイスシートや「アセスメントに関する事項」に整理して情報を共有している。親族や友人の面会には、お茶や場所に配慮しゆっくりとくつろげる環境を整えている。馴染みの美容室での整髪、地域の行事への参加、墓参り、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と協力して支援している。遠方に居住している家族とは電話や手紙の取り次ぎで関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を見極め利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り円滑な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族からの相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で会話や行動、表情等からも希望や意向の把握に努めている。困難な場合には家族の意向も尋ねながら検討している。	利用開始時の聞き取りや日頃の利用者との関わりの中で、思いや希望をくみ取るように努め、フェイスシートや日誌に記録して内容を共有している。対応については、申し送りやスタッフ会議で十分話し合い、一時帰宅や墓参り、外食などご家族とも相談しながら、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を基に家族や本人との会話より、生活歴や馴染み、生活環境等把握し、これからの生活に繋がられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送りや毎日の記録等で情報を共有し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族との話し合い、又は3ヶ月に1回のモニタリングやスタッフ会議の中で話し合い、現状に適したより良い介護が出来るよう計画を作成している。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を把握し、主治医や担当職員の意見を基にスタッフ会議で話し合っ、利用者本位のものを作成している。支援の状況はケース記録票や体調管理表に記録され、3カ月毎にモニタリングと計画を見直して改善に努めており、これらの状況は随時家族に報告して理解を得ている。また、利用者の状態の変化に対しても、計画の見直しや修正を適切に行って、現状に即した計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や体調等、日誌・個人別記録に記載し共有している。細かい事に関しては申し送りやノートを使い実践しながらスタッフ会議で話し合い、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、利用者の状況の変化に応じて、その方に合わせた援助が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物、観光場所を見学に行ったり、ドライブや近くに散歩に出かけるなど楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を利用して頂いている。家族が付き添い受診される方や往診を受けたりされる方もおり、体調面等記載し、書面にて状況報告を行い医療機関との連携に努めている。	利用者の既往歴等は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院は原則家族が同行しているが、状況によっては職員が支援している。また、月1~2回協力医療機関の往診も実施されている。受診結果は電話や来訪時の対話で家族と共有しており、医師との連携や情報交換も体調管理表や診察記録を活用して適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>観察点の疑問や普段の様子からの状態の変化を感じた時は看護師に相談し、必要に応じて医師の指示や受診を受けるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は家族に状態を尋ねたり、面会行い把握するよう努めている。ある一定期間を置き、医療関係者とのカンファレンスを行うようにしている。病状が落ち着いた時点で、いつでも受け入れられるよう対策を取るようになっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に“重度化した場合における対応に係る指針”を説明し家族が同意を得られるようにしている。状態の変化に伴い、家族の意向を基に医師との連携に努めている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、利用開始時に利用者と家族に「重度化した場合における対応に係る指針」で丁寧に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医から病状の説明と再度家族の意向を確認してホームで可能な限りの支援に取り組んでいるが、これまで看取りの実績は無い。リスクや問題点の解消が課題であり、取り組みについては今後、慎重に検討していく意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力を得て、救急法の研修を実施し、職員全員が対応できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行い、特に夜間を想定した訓練に取り組んでいる。緊急通報装置には自治会長や消防団の方も入れており、協力体制を築いている。</p>	<p>消防署との連携により年2回、夜間を含む火災を想定した避難・消火・通報訓練を、地域住民も参加して実施している。併せて消防署職員による防災に関する講話のほか、AEDや消火器の取扱い、心肺蘇生法等の研修が実施されている。また、近隣の地域住民との協力体制も築かれおり、自動通報装置の連絡先として自治会長宅も組み込まれている。スプリンクラーや消火器の設置とともに懐中電灯や卓上コンロの整備、災害に備えた食料や飲料水等の準備もなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを損なうことがないように声かけ、対応に心掛けている。	利用者の人格や尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねないように、利用者個々に合った丁寧な声かけや対応を日々心がけている。また、外出やレクリエーション参加の意向、入浴時の好みの温度や時間等、日常的に利用者自身が思いや希望に沿って自己決定できるような語り掛けを工夫している。マニュアルの整備や関連する研修も充実しており、個人記録の保管も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を交わす中で利用者の思いをくみ取り、希望に添えるよう努めている。又、利用者が選択肢出来るような声かけ行い、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに沿いながら、個人の意向も考慮し、その方に合った過ごし方に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で服を選べる方には選んで頂いたり、そうでない方には好みを考慮し着て頂いている。洗面台前でブラッシングして頂いたり、髭剃りなど行ってもらうよう声かけしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や近所から頂いた旬の野菜を使ったり、下ごしらえなど行ってもらいながら調理している。誕生会や行事食でお弁当にするなど変化を持たせ楽しんで頂けるよう努めている。食後はお盆やテーブル拭きの手伝いをして頂いている。	利用者の嗜好や食事形態等を十分に把握して1週間ごとの基本メニューを作成し、差し入れの野菜や施設の菜園の野菜も活用して、栄養バランスに配慮した食事づくりに努めている。季節感のある食材の利用をはじめ、誕生会や敬老会等の行事食、季節の花見の弁当、家族との会食等、食事を楽めるように工夫している。また、野菜の下ごしらえや台拭き、下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理表に毎日の食事、水分量を記入し、把握できるようにしている。利用者に合わせた食事形態で提供し、むせ込みある方にはトロミを使用している。水分量が不足しがちな方にはお茶をゼリー状にし提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り・介助行いながらその方に応じた口腔ケアを行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し、口腔内の清潔を保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その都度声かけを行ったり、排泄パターンを把握し時間ごとの誘導を行っている。夜間、オムツを使用している方も日中はトイレを使用し、自立に向けた支援に努めている。	体調管理表や排泄チェック表を活用して利用者の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように、また不安や羞恥心にも十分配慮した声掛けで可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体機能の変動に対しては、スタッフ会議や申し送りで話し合いを繰り返し、ケアプランにも組み込んで改善に努めている。各居室にはトイレが設置されているためポータブルトイレの使用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ってもらうよう声かけ行くと共に、散歩や運動を促したり、腹部マッサージ行うなど、予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めてあるが、利用者の体調や状態に応じ、変更するなど柔軟な支援を行っている。拒否みられる時は人やタイミングを変え、気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。	入浴は基本的には週3回であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面にも留意しながら、可能な限り好みの入浴を支援している。入浴を拒否される場合には、無理強いしないで言葉かけや介助者、日時の変更を試みるなど、気持ちよく入浴して頂けるように工夫している。個浴のため自然に皮膚疾患等のチェックが可能で、職員と親しく会話を楽しむ機会にもなっている。また、浴槽に柑橘類を入れるなどの工夫も行い、楽しめる入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に応じ適度な休息がとれるように配慮している。夜間は自然な眠りにつくことが出来るよう日中の活動量を増やすなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や用法・用量については“薬の説明書”で理解し、確実に服用できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の準備や日頃の手伝い、畑の草取りなどの作業を行ってもらい、楽しみや役割として支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は戸外への散歩を日課とし、日光浴しながら、時にはお茶を飲んだりしている。週1回の買い物やドライブ、初詣・花見等外出の機会を作り、楽しんで頂けるよう支援している。家族の協力を得て、外食や温泉に出かけられたりしている。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って日常的に近隣や園庭での散歩、買い物等に出かけて地域の方々や親しく挨拶や会話を交わしたり、菜園の手入れ等、可能な限り多くの支援に努めて気分転換を図っている。また、墓参や地域の行事、一時帰宅などは家族が主体的に行っており、協力して外出が楽しみとなるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	所持されている方もいるが、実際に使う機会はない。週1回の施設の買い物に同行してもらい、支払いをしてもらうこともある。家族と買い物に行かれる方もいらっしゃる。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	希望される時は電話を使えるよう支援し、電話を頂いた時は取次ぎを行っている。遠方にいらっしゃる家族へ手紙やハガキを書かれる際にお手伝いし、やり取りできるように支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ゆったりとした共用空間で心地良く過ごして頂けるよう温度・室温・音等に配慮している。洗面台には季節の花を飾ったり、一緒に作成した月々のカレンダーを飾ったり、楽しんでもらえるよう工夫している。	広い庭には菜園があり、ウッドデッキでは散歩や日光浴・お茶会などが楽しめる。ホームは鉄筋コンクリートの平屋造りで、リビングや廊下は広くて天窓が設置してあるため明るく、空調・防臭等にも十分配慮した構造になっている。対面式のキッチンからは調理の音や匂いが伝わってくるなど家庭的な雰囲気になっており、テーブルや椅子・ソファなども適当な間隔で設置されて、利用者が好きな場所で気持ちよく過ごすことができるように工夫されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者の関係を配慮した居場所作りを行っている。テーブル席の他にソファや一人掛けの椅子を各所に配置し、気の合う人同士や一人で過ごせるスペースを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的には家族が希望されるものを持ってきて頂いている。安全面を考慮しながら配置し、窓辺に写真・花・本等飾り、居心地良く過ごして頂く工夫をしている。又、必要性に応じ馴染みの物や本人が好まれるものを持ってきて頂いたり、家族へ相談を持ち掛けたりしながら、心地良く過ごして頂けるよう支援している。</p>	<p>各居室は余裕のある広さで明るく、ベッドやエアコン、ロッカー、水洗トイレが設置されている。利用者がそれまでの暮らしの中で使い慣れた家具や身の回りの物を自由に持ち込んで頂き、自宅同様に落ち着いて居心地良く過ごせる居室となるように、家族とも十分に話し合って柔軟に支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子や歩行器使用の方も多いため、ホール内には不要なものは置かないよう整理整頓に努めている。一人ひとりの能力に応じて家具やベッドの位置を変えるなど、安全面に配慮しつつ自立に向け支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない